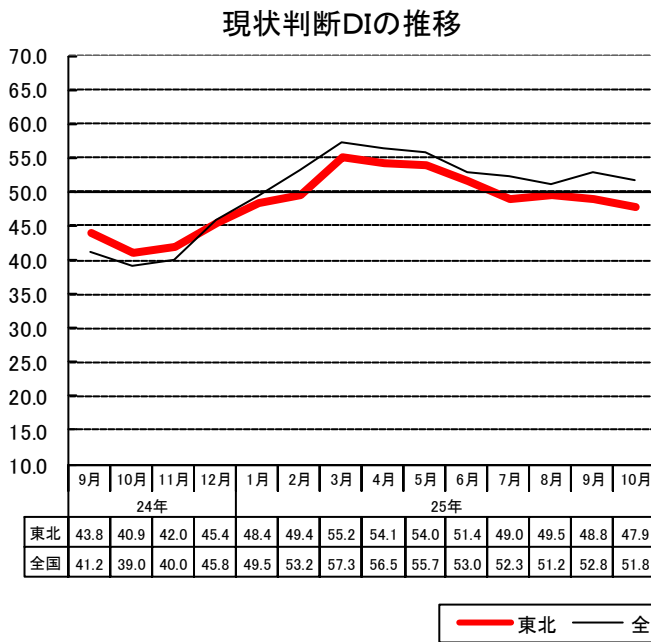


公益財団法人東北活性化研究センター
 「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 25 年 1 0 月東北分
 (新潟を含む東北 7 県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター(会長:高橋宏明・東北電力(株)取締役会長)は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 25 年 1 0 月東北分(新潟を含む東北 7 県)」について、とりまとめましたのでお知らせいたします。

1. 現状判断(3か月前との比較、方向性)

現状判断 DI「47.9」(▲0.9)は、2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる 50 を 4か月連続で下回った。



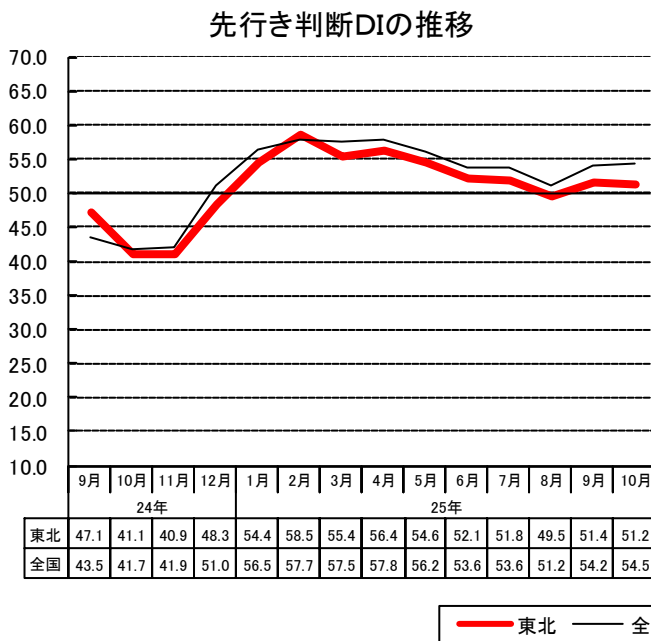
・家計動向…台風や大雨の悪天候の影響で集客が落ち、売上の減少につながっている。DIは「45.4」(▲2.2)と2か月連続で前月を下回り、基準値 50 を 4か月連続で下回った。

・企業動向…建設業を中心に、受注・販売環境が良い状況が継続している。DIは「50.6」(±0.0)と前月から横ばいで、基準値 50 を 10か月連続で上回った。

・雇用動向…DIは「59.1」(+5.7)と2か月ぶりに前月を上回り、基準値 50 を 10か月連続で上回った。

2. 先行き判断(2~3か月先の見通し、方向性)

先行き判断 DI「51.2」(▲0.2)は、2か月ぶりに前月を下回ったものの、景気判断の基準となる 50 を 2か月連続で上回った。



・家計動向…年末年始の商戦と、消費税増税前の駆け込み需要への期待感がみられる。DIは「51.0」(+1.0)と2か月連続で前月を上回り、2か月連続で基準値 50 以上となった。

・企業動向…前月より業績の低下が見込まれる業種が増加している。DIは「50.0」(▲4.8)と2か月ぶりに前月を下回ったものの、11か月連続で基準値 50 以上となった。

・雇用動向…DIは「54.5」(±0.0)と前月から横ばいで、基準値 50 を 11か月連続で上回った。

<参 考>

■D Iの推移※

(1) 現状判断(方向性) D I

	24年				25年									
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
東北現状	43.8	40.9	42.0	45.4	48.4	49.4	55.2	54.1	54.0	51.4	49.0	49.5	48.8	47.9
家計動向関連	42.1	41.0	41.1	45.7	45.3	46.4	53.6	52.6	52.1	51.0	47.6	48.4	47.6	45.4
企業動向関連	45.1	37.2	42.5	43.1	53.6	55.5	57.3	56.0	59.5	51.8	53.0	51.2	50.6	50.6
雇用関連(参考)	52.3	47.7	46.6	47.7	59.1	58.0	61.4	60.2	55.7	53.4	51.1	53.4	53.4	59.1

(2) 先行き判断D I

	24年				25年									
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
東北先行き	47.1	41.1	40.9	48.3	54.4	58.5	55.4	56.4	54.6	52.1	51.8	49.5	51.4	51.2
家計動向関連	46.2	40.2	39.2	47.4	52.9	58.4	53.6	54.7	53.5	50.3	49.7	47.2	50.0	51.0
企業動向関連	49.4	42.1	45.0	50.0	59.5	61.6	61.0	60.7	57.1	57.7	58.5	54.2	54.8	50.0
雇用関連(参考)	48.9	44.3	44.3	51.1	54.5	53.4	56.8	59.1	56.8	53.4	53.4	55.7	54.5	54.5

※D I (Diffusion Index) について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

■調査の概要

調査期間 平成 25 年 10 月 25 日～31 日

回答者数 210/210 名、回答率 100.0%(全国 1,891/2,050 名、92.2%)

以上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター (担当: 佐藤(健))

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL : 022-222-3394 FAX : 022-222-3395

<別 紙>

■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「やや良くなっている」

（旅行代理店）…前年は復興需要の件で伸びていた。今年に入って落ちると予想していたが、前年同期比を見ても落ちてきておらず景気はやや良い。また、他社の状況を聞いても動きは活発のようである。

（自動車整備業）…来客数、単価、販売額のいずれも、前年比、前月比共に微増となっている。

（リフォーム業）…屋根、外壁塗装工事の受付が急増しており、今月の工事完了金額も予算を超過している。

（一般機械器具製造業）…自動車部品は、国内需要については計画を上回る水準で受注が入ってきており、輸出についても比較的良好な環境にある。

（建設業）…会社の対応能力には限界があるため、選別受注に向かわざるを得ない。

（司法書士）…消費税増税関連での住宅着工に関する登記の受注が増えている。

（職業安定所）…求人は増加しているが、かなりの割合をパート求人が占めている。確かに景気は良くなっているが、現在公表されている求人倍率ほどは回復していない。

（民間職業紹介機関）…最近、自動車関連及び携帯電話関連の求人が増加している。

○「変わらない」

（商店街）…台風、大雨の天候が続き、来街者への足どめとなっている。小売店中心の店舗構成で、駆け込み需要のような特需もなく、前年同月を下回る売上が続き、状況は芳しくない。

（スーパー）…依然、円安の影響で輸入商品等の原料値上げは続いている。安さの打ち出しが難しい状況で、1品単価は前年並みだが買上点数が前年割れとなっており、厳しい状況に変わりはない。

（家電量販店）…復興需要、新築需要、消費税増税前の買換えが見られるが、特別盛り上がりしている様子はない。堅実な白物家電といわれている冷蔵庫や洗濯機、エアコンは前年より伸びているし、テレビも一時の落ち込みが止まっており、微増ではあるが前年をクリアしている。

（乗用車販売店）…新型車効果は薄れてきたものの、来春の消費税増税決定を受けての新車購入目的の客の動きは相変わらず堅調である。

（パソコン専門店）…商品の動きは変わらない。量が出る時は単価も下げられるため、利益的にも変化はない。

（靴専門店）…台風や雨の影響で集客が落ちている。来客数の減少が続き、客単価も下がり始めてきている。

（ガソリンスタンド）…相変わらず販売価格が低迷している。競争が厳しくなっており、収益が圧迫されている。冬場の暖房の需要期に向かい仕入価格が上がってきているが、末端価格に転嫁できない状況が続いている。そのため、収益が減少している。

（電気機械器具製造業）…3か月前と比べてほとんど変化が無い。業界全体で考えても、新製品は出るが生産数の大きな変化には繋がっていない。

（企画業）…取引先の住宅会社の景況が良いところで推移している。しかし、景況は良いものの、供給数に限りがある地元工務店なので、それ以上の受注には対応できないという不安もはらんでいる。

（人材派遣会社）…10月の中旬に、大卒の新卒採用について合同会社説明会のイベントがあったが、50社ほどの企業が参加していた。求人意欲の高さがうかがえる。

（新聞社[求人広告]）…良い話は首都圏の大企業のみである。前年に比べ広告出稿量に増減は無く、ほぼ昨年並みで、地方に景気の良さは特にうかがえない。

○「やや悪くなっている」

（スポーツ用品店）…中心商店街の土日の人出は最近特に少なくなっている。店頭販売も下がっているため、外商を強化しているが、外商は利益率の低下や売掛金の発生などリスクが高い。

(百貨店) …10月1日の消費税増税の発表後、急激に消費マインドが低下したのか、すべての分野で売上トレンドが下降した。来客数、買上点数、1品単価、1客単価などにおいて前年同月比、前月比を下回っている。

(コンビニ) …先月近隣に24時間営業スーパーが開業した影響で、深夜の来客数が激減している。

(衣料品専門店) …今月は大きな気温の変動や台風などの気候の影響が響いており、来客数が減少している。売上も3か月前に比べて落ちている。

(高級レストラン) …北東北では急速な寒の入りに加え、大雨や台風などがあり、観光や学会、各種大会等で来県されても、出先での積極的な購買が減少している。

(観光型旅館) …10月後半は紅葉期で本来は観光地としてはオンシーズンであるが、観光スポットのにぎわいも例年より少ないようである。また、宿泊に関しても週末以外は空室も目立つ。お金のかかる宿泊よりも日帰り観光にシフトしているようである。11月前半も予約が伸び悩んでいる。

(都市型ホテル) …宿泊、宴会、レストランのすべてにおいて来客数の減少が見られ、予算が達成できなかった。年末にかけて散財するためか、特に夜のレストラン利用が減っている。二度の台風の影響も大きい。

(遊園地) …消費に力強さが見られない。また、台風を始め週末3回が悪天候となり、前年を20%以上下回っている。7月以降は天候要因もあり、前年を下回る状態が続いている。

(農林水産業) …長く続いた残暑や台風といった天候不順により、作物の生育が悪く、収量が少なくなっている。

○「悪くなっている」

(百貨店) …10月に入り比較的前半は気温が高かったことも影響し、秋冬物が不振である。重衣料などの比較的高額な商品の動きはまずまずだが、軽衣料の動きは鈍い。顧客数は変わらないが、フリー客は減少している。顧客は重衣料などの高額品を早い時期に購入するため、当然重衣料売上は順調である。フリー客減の一因として、同地区のファッションビルオープンが大きく影響している。当社は今月リモデルオープンをし、大きく伸長するはずだったにもかかわらず、思った以上に来客数が上がらず、大苦戦することとなった。それとも、新ブランドの魅力がなく、客の取り込みに失敗、動員出来なかったかである。

(2) 先行き判断理由

○「やや良くなる」

(百貨店) …部分的に来年度の消費税増税に向けた駆け込み需要は現れてきており、徐々にその動きは顕著になってくる。特に、年末年始の商戦は高額商品中心に活発に動き、全体を押し上げると予想している。

(衣料品専門店) …天候に左右されやすいという不安要素は付きまとうが、冬物商品の立ち上がりの早さから、実売期に向けて買上客数の増加が見込まれる。

(乗用車販売店) …景気が良くなるというよりも、来年の消費税増税を前に駆け込みの客は間違いなく増える。

(ショッピングセンター) …降雪量が前年並との予報が出ている。機能性防寒衣料の除雪関連商品、住居用品、暖房器具等の売上が期待できる。また、クリスマス雑貨の初動が好調である。

(一般レストラン) …年末年始は人の出も多くなり、それに照らし合わせたように購買意欲も上がり、色々な分野でお金の消費も多くなる。忘年会シーズンも到来し、予約も既に埋まってきている。よって、景気は今よりは少し良くなる。

(都市型ホテル) …今年はレストランのクリスマス予約に力を入れて活動しており、前年の倍は受注する見込みである。宴会は忘年会受注が好調で前年以上の期待も持てる。

(観光名所) …下地となっている台湾からの客は来月の中旬までだが、その後も国内の客を中心に予約数が伸びている。予約状況から、これからやや上向いてくるのではないかと予測している。

(一般機械器具製造業) …自動車部品については消費税増税前の駆け込み需要の発生が予測されるため、今期中は比較的好調に推移するとみている。

(建設業) …技術者不足、資機材高騰等の不安材料はあるものの、量的には増加傾向がしばらく続く。

(新聞社[求人広告]) …ホテルの新設や郊外型大手流通の進出がこれからもあり、募集も始まっている。これが仙台圏市場の活性化につながれば上向き傾向は続く。

○「変わらない」

(スーパー) …11月の平均単価の上昇は前年比2%とはいかないが、取引先の原材料費高騰の製品転嫁は進んできたようである。しかし、小売業では同業だけでなく異業態競争が広がり、消費の奪い合いも激しくなっている。競合以外にも地方では過疎化や人口減もあり、今後も来客数の伸びはあまり期待できない。消費税増税を控えて、各企業の投資動向や給与所得増への対応などを、消費の動静と共に注視していきたい。

(観光型ホテル) …現在、11月の入込は前年比2割減である。12月以降は前年並みとみられるが、予約発生が遅く見通しが立たない。

(通信会社) …本来の好況消費が伸びていない。消費税増税前の駆け込みが伸びるであろうから、一時的に判断数値は良くなるものの、継続力には大きく欠けると想定している。

(住宅販売会社) …受注は取れても、現場の職人の手当てができず、更なる完成工事高は望めない。

(コピーサービス業) …売上の伸びは少なく、前年を守るのが精一杯の状況である。それも、相当の努力をしないと守れない状況になっている。また、民間企業の設備投資も少なく、価格競争になることが多くなっている。

(飲食料品卸売業) …酒類の値上げについては、年内は一部の銘柄のみとの動きから、年内中は順調な出荷が見込まれる。

(人材派遣会社) …求人意欲はあるものの、消費税増税をにらんで、本当に良い人材でないと採用しないという状況が生まれている。採用枠数名のところはその10倍くらいの応募があっても、採用ゼロという企業があるが、それは先行きに対して少し悲観的な動きもあるからだろうとみている。悲観的な動きがある一方で、求人数は多いこともあり、変わらないと判断している。

(職業安定所) …新規求人数が8年ぶりで1万人を超えたが、一方で生産拠点を海外に移すために工場を縮小したりだとか、老舗のタクシー会社が燃料費高騰の影響を受け破産手続きに入るなど、失業者が増加するような動きもあり、景気は変わらない。

○「やや悪くなる」

(コンビニ) …12月の繁忙期で売上は一時的に上がるが、1月以降は春まで右肩下がりでいく。また、除雪による経費が大きな負担となる。競合の影響次第だが厳しくなってくる。

(土石製品製造販売) …燃料費の高騰が続く限り、工場稼働や運送にかかるガソリン代が大きな痛手である。だからといって、その分販売価格の値上げをする訳にはいかない。社内でも福利厚生施設を少なくするなどしており、景気が良くなるといえる状況にはない。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上